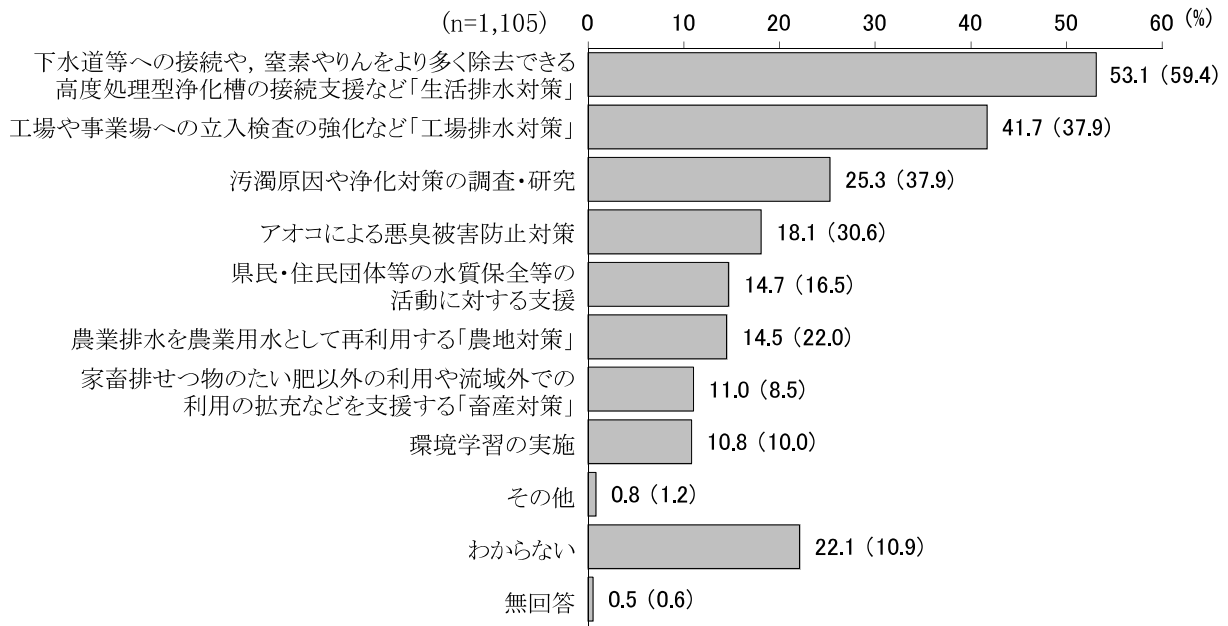


## X 霞ヶ浦などの湖沼・河川の浄化

### 1. 霞ヶ浦などを浄化するために力を入れるべき取り組み

#### －「生活排水対策」が5割台半ば－

問26 霞ヶ浦などを浄化するため、県が森林湖沼環境税を活用し、さまざまな対策を行っています。力を入れるべき取り組みは、次の中のどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※( )内の数値は、平成26年の調査結果

※「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策」」は、平成26年では「下水道等への接続支援など「生活排水対策」」。

※「工場や事業場への立入検査の強化など「工場排水対策」」は、平成26年では「立入検査の強化など「工場排水対策」」。

※「家畜排せつ物のたい肥以外の利用や流域外での利用の拡充などを支援する「畜産対策」」は、平成26年では「堆肥を流域外で利用する取組などを支援する「畜産対策」」。

霞ヶ浦などを浄化するために力を入れるべき取り組みとしては、「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策」」（53.1%）が5割台半ばと最も高く、次いで、「工場や事業場への立入検査の強化など「工場排水対策」」（41.7%）が4割台で続いている。

#### －「汚濁原因や浄化対策の調査・研究」と「アオコによる悪臭被害防止対策」が約13ポイント減少－

前回調査（昨年）とは選択肢が異なるため単純な比較はできないが、前回調査よりも、「汚濁原因や浄化対策の調査・研究」と「アオコによる悪臭被害防止対策」がそれぞれ約13ポイント、「農業排水を農業用水として再利用する「農地対策」」が約8ポイント、「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策」」が約6ポイント減少している。一方、「わからない」が約11ポイント増加している。

**ー県南で「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策）」が約6割ー**

地域別でみると、「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策）」は、県南（58.2%）で約6割と最も高くなっている。

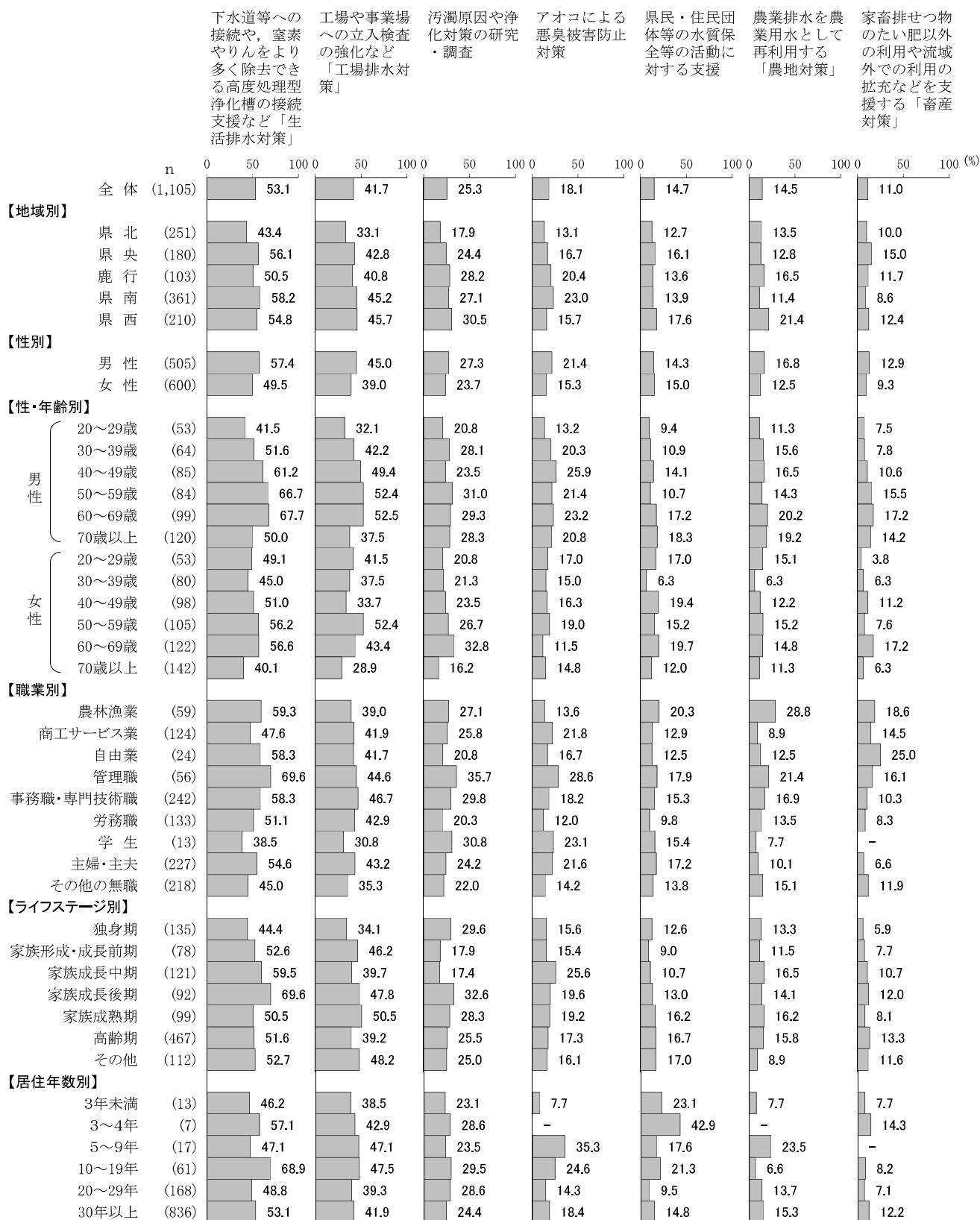
**ー男性で「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策）」が女性よりも約8ポイント、「工場や事業場への立入検査の強化など「工場排水対策）」が女性よりも6ポイント高いー**

性別でみると、「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策）」は、男性（57.4%）が女性（49.5%）よりも約8ポイント、「工場や事業場への立入検査の強化など「工場排水対策）」は、男性（45.0%）が女性（39.0%）よりも6ポイント高くなっている。

**ー男性の50代と60代で「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策）」が6割台後半ー**

性・年齢別でみると、「下水道等への接続や、窒素やりんをより多く除去できる高度処理型浄化槽の接続支援など「生活排水対策）」は、男性の50代（66.7%）と60代（67.7%）で6割台後半と高くなっている。

図X 26-1 霞ヶ浦などを浄化するために力を入れるべき取り組み  
 (地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別—上位7項目)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

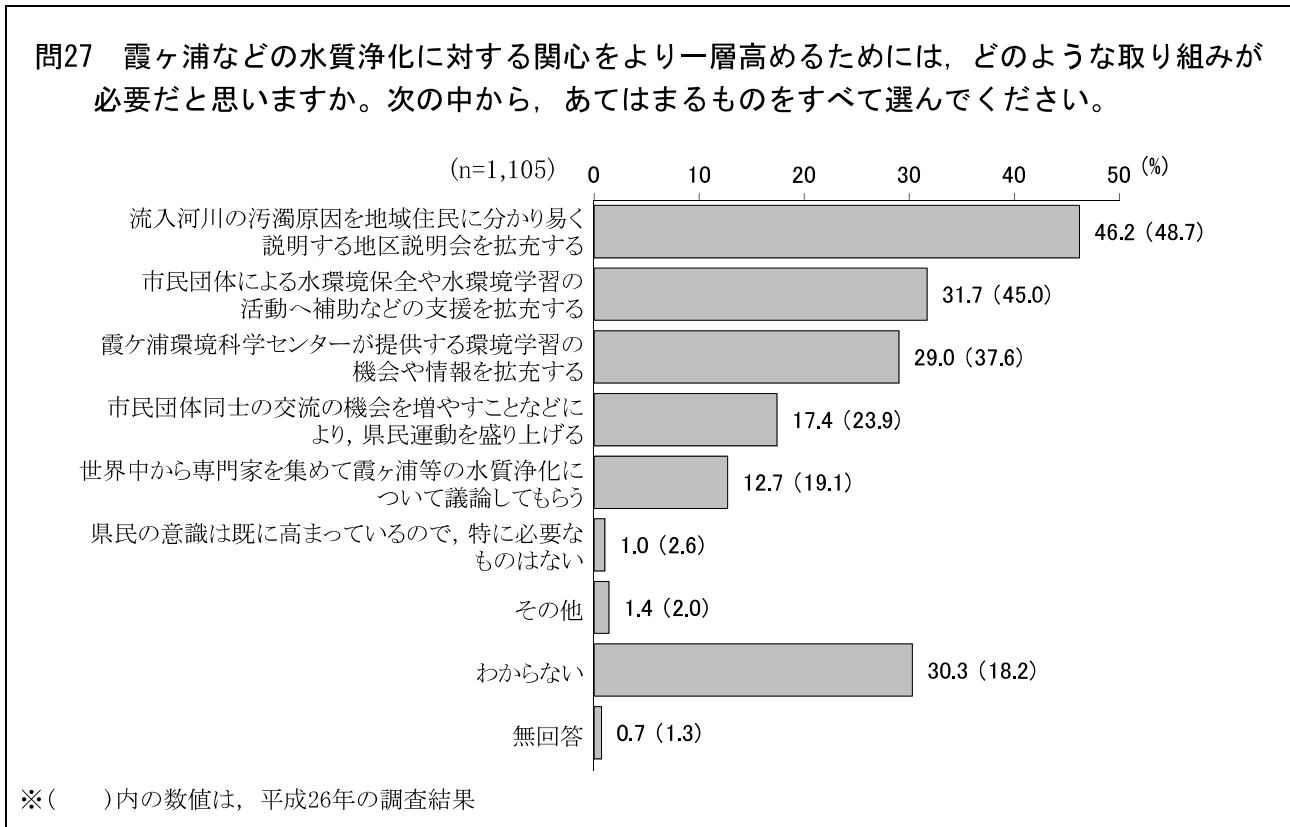
表X 26-1 霞ヶ浦などを浄化するために力を入れるべき取り組み  
(前回調査との比較-上位5項目)

(単位：%)

	1位	2位	3位	4位	5位
今回調査 (H27) n=1,105	下水道等への接続 や、窒素やりんを より多く除去でき る高度処理型浄化 槽の接続支援など 「生活排水対策」 53.1	工場や事業場への 立入検査の強化な ど「工場排水対 策」 41.7	汚濁原因や浄化対 策の研究・調査 25.3	アオコによる悪臭 被害防止対策 18.1	県民・住民団体等 の水質保全等の活 動に対する支援 14.7
前回調査 (H26) n=1,112	下水道等への接続 支援など「生活排 水対策」 59.4	立入検査の強化など「工場排水対 策」／汚濁原因や浄化対策の研究・ 調査 37.9		アオコによる悪臭 被害防止対策 30.6	農業排水を農業用 水として再利用す る「農地対策」 22.0

## 2. 水質浄化に対する関心を高めるために必要な取り組み

### －「地区説明会を拡充」が4割台半ば－



霞ヶ浦などの水質浄化に対する関心を高めるために必要な取り組みとしては、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」(46.2%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する」(31.7%)が3割台で続いている。

### －「市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する」が約13ポイント減少－

前回調査(昨年)と比べると、「市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する」が約13ポイント、「霞ヶ浦環境科学センターが提供する環境学習の機会や情報を拡充する」が約9ポイント、「市民団体同士の交流の機会を増やすことなどにより、県民運動を盛り上げる」と「世界中から専門家を集めて霞ヶ浦等の水質浄化について議論してもらおう」がそれぞれ約6ポイント減少している。一方、「わからない」が約12ポイント増加している。

### －県西で「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」が5割超－

地域別でみると、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」は、県西(52.4%)で5割を超えて最も高くなっている。また、「霞ヶ浦環境科学センターが提供する環境学習の機会や情報を拡充する」も、県西(34.8%)で3割台半ばと最も高くなっている。

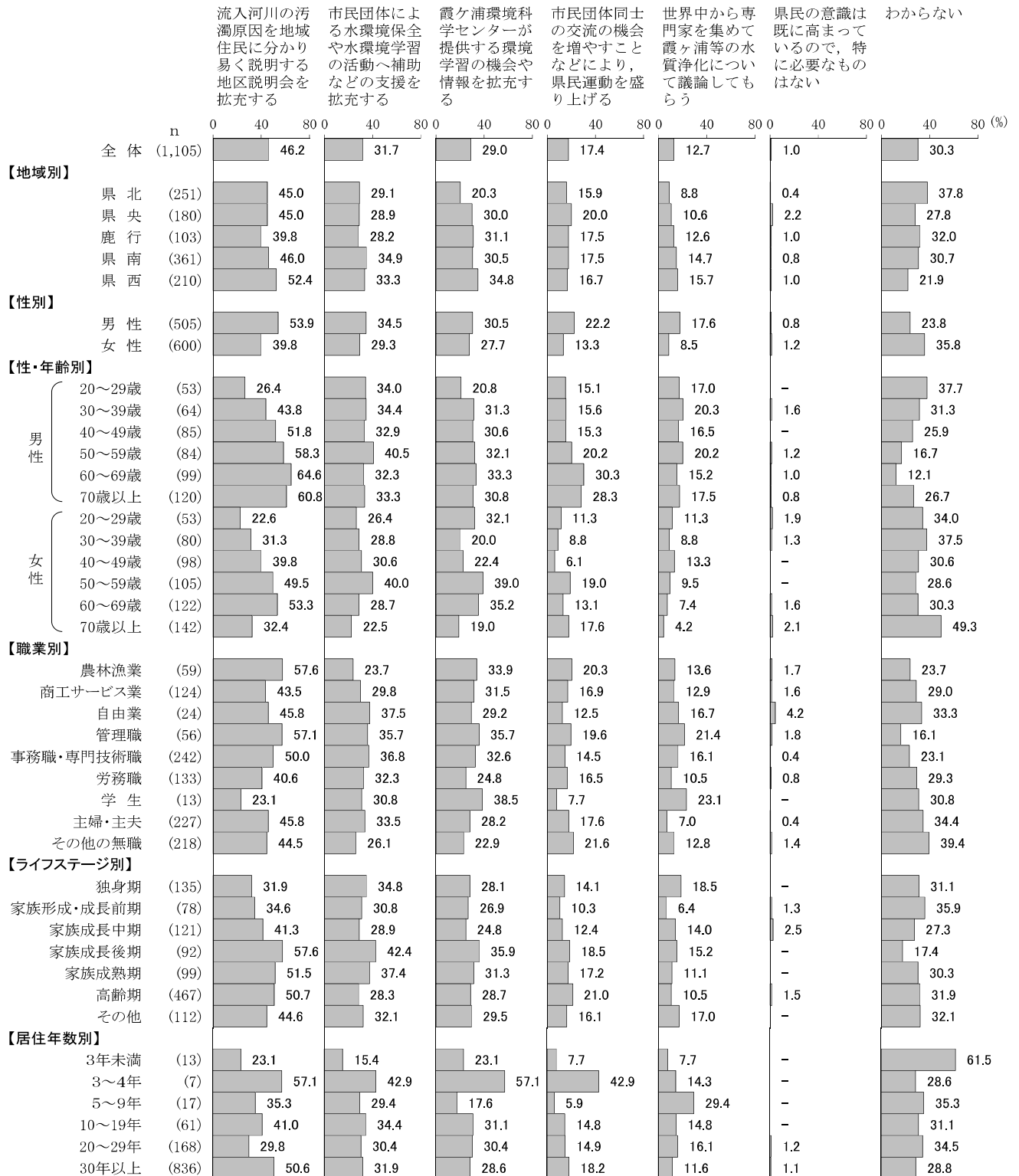
### －男性で「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」が女性よりも約14ポイント高い－

性別でみると、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」は、男性(53.9%)が女性(39.8%)よりも約14ポイント高くなっている。

一男性の60代と70歳以上で「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」が6割台前半一

性・年齢別でみると、「流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する」は、男性の60代（64.6%）と70歳以上（60.8%）で6割台前半、男性の50代（58.3%）で約6割と高くなっている。

図X 27-1 水質浄化に対する関心を高めるために必要な取り組み  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

表X 27-1 水質浄化に対する関心を高めるために必要な取り組み  
(前回調査との比較—上位5項目)

(単位：%)

	1位	2位	3位	4位	5位
今回調査 (H27) n=1,105	流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する 46.2	市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する 31.7	霞ヶ浦環境科学センターが提供する環境学習の機会や情報を拡充する 29.0	市民団体同士の交流の機会を増やすことなどにより、県民運動を盛り上げる 17.4	世界中から専門家を集めて霞ヶ浦等の水質浄化について議論してもらう 12.7
前回調査 (H26) n=1,112	流入河川の汚濁原因を地域住民に分かり易く説明する地区説明会を拡充する 48.7	市民団体による水環境保全や水環境学習の活動へ補助などの支援を拡充する 45.0	霞ヶ浦環境科学センターが提供する環境学習の機会や情報を拡充する 37.6	市民団体同士の交流の機会を増やすことなどにより、県民運動を盛り上げる 23.9	世界中から専門家を集めて霞ヶ浦等の水質浄化について議論してもらう 19.1